

議 事 録

会議名称	第4回小松市未来型図書館等複合施設基本計画策定アドバイザリーボード
日 時	令和6年10月30日（水） 16時～18時
場 所	市役所4階403会議室
出席者	（順不同） アドバイザー2名 野末 俊比古氏（青山学院大学教育人間科学部長・教授）※オンライン参加 杓谷 茂樹氏（公立小松大学国際文化交流学部国際文化交流学科長・教授） 事務局（市長公室未来型図書館づくり推進チーム） 横山、高橋、林、竹内、中山 支援業務受託者（アカデミック・リソース・ガイド株式会社（以下「JV」）） 李、有尾 ※オンライン参加
次 第	1. 基本計画の策定について ①図書館機能、博物館機能、市民交流・活動機能 ②配置計画（ゾーニング図）案 2. リビングラボについて ①第3回リビングラボ開催報告 ②第4回リビングラボ企画案 ③ティーンズ版リビングラボ 3. マーケット・サウンディング調査の結果について
配布資料	【資料1】複合施設機能の概要_図書館・博物館・市民交流活動機能 【資料2】配置計画（ゾーニング図）案 【資料3】第3回リビングラボ開催報告 【資料4】第4回リビングラボ企画案について 【資料5】ティーンズ版リビングラボについて 【資料6】マーケット・サウンディング調査の結果

＜会議内容は下記のとおり＞

1. 議事

(1) 基本計画の策定について

①図書館機能、博物館機能、市民交流・活動機能

資料1に基づき、ＪＶより説明。

【主な質疑応答・意見交換】

杓谷氏	図書館機能については、これまでも議論されてきており、市民交流・活動機能についてもリビングラボにて話されてきているところかと思う。博物館については、議論はまだ不十分であると感じている。現在並行して策定に向け検討を進めている小松市文化財保存活用地域計画があるが、未来型図書館の「地域の歴史・文化の集積」と計画を紐づけてどのように記載していくかは検討していく必要があるのではないかと感じる。
事務局 横山	小松市文化財保存活用地域計画の議論のなかでも未来型図書館に関する記載について検討されている。また、同計画においても「交流」や「ものづくり」等がキーワードとなっており、もう少し地域の人々の生活や暮らしに根づいた内容にしていく必要があるのではないかとのご意見もいただいている。基本計画において「ものがたり」「ものづくり」というテーマで良いのか改めて検討していく必要があると感じている。
ＪＶ 李	小松市文化財保存活用地域計画も参照しながら本基本計画にも反映していきたい。
杓谷氏	「ネットワークのハブとして機能」という表現は非常に良い。「エコミュージアム」という議論もあるが、そういった考え方のなかで、小松市全体を一つの博物館と捉え、まさに未来型図書館はコア施設に位置づけられるのではないか。
ＪＶ 李	「エコミュージアム」を謳うかどうかはもう少し議論が必要だが、考え方についてはぜひ意識して検討していきたい。
杓谷氏	「基本的な機能・サービス」に人材育成が入ってくる必要がある。博物館学芸員の資格を取得するには実習が必要であり、その実習は登録博物館や博物館指定施設で行うものである。未来型図書館もその実習先になってくると思うが、実習生がリビングラボとも連動しながらその活動を展開することも一つのスタイルとして体現していけると良い。
杓谷氏	「市民学芸員」や「市民研究員」は、リビングラボの考え方のもと、市民が主体的に調査・研究や企画に関わり、学芸員とともに、一緒につくりあげていく機会があると良い。そういった意味で、学芸員の執務室の隣にリビングラボの活動スペースも位置付けられると良いのではないか。収蔵庫や書庫にもアクセスしやすいゾーニングも検討していく必要があるだろう。

J V 李	人材育成についてはぜひ盛り込んでいきたい。市民の参加についても、博物館機能と具体的にどのように繋げていけるのかについて詰めていきたい。
野末氏	基本計画は、現在のフォーマットが最終成果物になるイメージか。現状の資料は、読んでわかるものと、口頭での説明を聞いてわかるものの中間の書きぶりになっているのではないかと感じる。最終的な成果物を意識しながら議論していった方が良いのではないかと。図式として見て理解してほしいところと、テキストを読んで理解してほしいところの書き分けを意識してつくり込んでいくと良いのではないかと感じた。
事務局 横山	本来であれば、テキストベースの文書と図版等を多めに盛り込んだ資料の両方を作成していくイメージだが、必ずしもそれにこだわるものではない。昨年度は、本体の報告書は読んでわかる内容として文章を書き込むかたちのものと市民向けにコンパクトにまとめた概要版に加え市の方で議会向けの資料を作成した。現状はベースとなる資料を準備したうえで、市民向けの資料を作成していくことになると考えている。
事務局 高橋	読み込みたい方向けの本編と概要版の準備は必要になってくるのではないかと考えている。初見であってもわかりやすい資料のつくり方で最終的にまとめていきたいと考えている。
J V 李	共創を謳う本事業においては、市民のみなさんへの伝わりやすさを優先した横型が良いのではないかと考えている。図版を含め、現時点で内容の足りない部分は補完していく想定である。文書の形式は横型と縦型で随分印象が変わるが横型の方が資料としては読みやすいのではないかと考えている。市のみなさんとも検討を重ねていきたい。
野末氏	これまで本事業のなかで博物館については十分に議論されてきていないように感じるが、これから新たに議論すべき部分と、小松市の博物館としてこれまで検討してきた部分もあるかと思う。そこまでの検討内容も抑えて書き込んでいく必要はあるだろう。本文と注釈のように解説的な記述もあるとわかりやすいのではないかと感じる。
野末氏	「未来型」とは何かについて、我々のなかでも議論し固めていく必要があるのではないかと考える。大きな方針や方向性は議論をしておけるとまとめやすくなるのではないかと。市民のみなさんにも投げかけを行えると良いだろう。
事務局 高橋	これまでと未来へのつながりを意識しつつ、それぞれで感じている「未来型」の考えも大事にしていきたいと考えている。
J V 李	第1章で、未来型図書館について定義付けを行っていききたいと考えている。すでにリビングラボのなかで「未来型」につながる意見は多く出ているのではないかと感じており、それらを紡いでいくかたちが良いのではないかと考えている。「未来型」について、推進チームのみなさんとも議論を始めているところでもあるので、アドバイザーのみなさんにも今後のアドバイザリーボードにおいてご意見をいただけたらと考えている。

事務局 中山	子ども司書の活動とともに、図書館エディターも活動を進めており、図書館エディターのメンバーの方々にはリビングラボにも参加いただいている。図書館エディターの今年度の活動として、第1回リビングラボの「ライブラリーテーマ」をもとに、現図書館において本棚づくりを行ってみたいと考えている。メンバーの方にも相談してみたところ、自分たちの活動を通じて、一緒に活動したいと思ってもらえるような仲間が増えたら良いといった意見もいただいている。今後の企画会議を通じて、図書館エディターの皆さんと一緒に、本棚づくりのようにリビングラボでの意見やアイデアの実践にも挑戦していきたいと考えている。
事務局 横山	「未来型」の考え方を固めていかななくてはならないが、同時に「未来型図書館」が「図書館」のイメージへ引っ張られてしまう部分があるため、施設名称についても今後検討の必要があると感じている。

②配置計画（ゾーニング図）案

資料2に基づき、ＪＶより説明。

【主な質疑応答・意見交換】

ＪＶ 李	第3回リビングラボの成果を設計チームの方で分析し、配置計画（ゾーニング図）をＡ案・Ｂ案としてまとめている。
事務局 高橋	昨日のアドバイザリーボードのなかで、回遊性がわかりやすくなるとより良くなるのではないかと吉田氏からアドバイスいただいた。「静」と「動」の組み合わせや、人の集まる仕掛けの工夫についても検討が必要になってくるだろう。複数のグループでリビングラボ機能を施設の中心に据えていただいている点について嬉しく感じている。
杓谷氏	ゾーニングにおいても、議論がどうしても図書館に引きずられてしまう側面があり、やや博物館に関する議論に寂しさを感じる。博物館については企画展で料金を徴収するという可能性もあるのではないかなと思う。そうした点では、どこからでも入れるわけではない空間についても検討が必要になってくるだろう。市立博物館館長等、専門家の意見もうかがいつつ議論を深めていただけたらと思う。博物館機能はもう少しスペースがあっても良いのではないかなと感じた。
ＪＶ 李	博物館の活動をより伝えるための「ものがたり」をしっかりとつくり込んでいく必要を感じている。博物館機能においても、ゾーニングにおいても「ものがたり」をつくっていくことが有効なのではないかなと考えている。
事務局 高橋	博物館機能と図書館機能との融合的な空間を設けていけるのではないかなという検討もある。
野末氏	図書館機能と博物館機能の重なりが重要なのではないかなと感じている。博物館は展示において学びの道筋が明確に示される点に強みがあり、図書館はそうした学びの道筋という点で圧倒的に弱いという特徴がある。そうした点では博

	物館機能に寄せていけるとよく、逆に言えば、博物館は検索機能が弱いため、その点については図書館機能に寄せていけると良い。そうした部分が両機能の重なりになっていくのではないかと。
野末氏	ゾーニングのなかに、名前があるスペースでもほかの用途でも使えるマルチユースな場所や、可動のスペースもあるのではないかと。そうした点も読み取れると良いのではないかと感じている。
J V 李	空間の検討にあたって、基本を「静」とし、そこにフレキシブルな空間を加味する考え方があるが、基本を多様な空間と考え、そこに「静」的な機能を絞った空間を加えるという考え方もある。未来型図書館においては後者の方が良いのではないかと考えている。
野末氏	いわゆるペルソナのように典型的な利用者を想定し、時間の経過と空間の使い方が見えてくると、面白くなり、わかりやすくもなるのではないかと。
J V 李	賛成である。今年度のリビングラボではエクスペリエンスマップでの検討はできなかったため、基本計画においてどのように検討しどのように表現していくかは考えていきたい。
事務局 横山	諸室名については、イメージできるものが異なる場合もある。諸室の使い方のイメージや定義をすり合わせていく必要を感じている。

(2) リビングラボについて

①第3回リビングラボ開催報告

資料3に基づき、J Vより説明。

【主な質疑応答・意見交換】

杓谷氏	参加者のみなさんは様々な想いやアイデアがあり、平面ではなく、それぞれが景色を思い浮かべながら模造紙に落とし込んだが、時間がなかなか足りず、いくらでも議論が続けられるテーマであったと感じる。
野末氏	時間がもう少し欲しかったと感じた。ワークも難しい部分はあったかと思う。一方で、時間が足りないことで大事にしたい部分にフォーカスできたのではないかと感じる。図書館・博物館を整備する際は使う人たちのなかに答えがあると感じた。みなさんのアイデアのなかに良いものがあるので、それをうまく拾っていけると良い。時間が足りないと思った人もいると思うが、参加者のみなさんは熱心なため、リビングラボの開催前もしくは開催後に宿題を出して良いのではないかと感じた。

②第4回リビングラボ企画案

資料4に基づき、J Vより説明。

【主な質疑応答・意見交換】

事務局 高橋	基本計画の検討状況についても報告予定。前回説明した図書館機能に加え、博物館機能等、他の機能についても検討が進んでいる内容は方向性を共有して
-----------	---

	いきたいと考えている。毎回基本計画がどのように進んでいるか、リビングラボでの意見がどのように反映されているかについて共有し、未来型図書館づくりに関わってきた実感をもてる機会としていきたいと思う。
J V 李	野末教授のショートレクチャーについては、未来型図書館と公園等の周辺環境との関係性についてお話しいただけるとありがたい。
事務局 高橋	こういった公園が日常の生活にとけ込むのか、未来型図書館があることで、公園での過ごし方がどのように変わるのかという点も意識していきたいと考えている。
野末氏	いわゆるコモンズ的な場所としての未来型図書館のある公園という概念であると理解した。井戸端や路地裏のイメージにも近いかもしれない。

③ティーンズ版リビングラボ
資料5に基づき、事務局より説明。

【主な質疑応答・意見交換】

事務局 竹内	イマキクを活用し、ティーンズ版リビングラボの取り組みを開始している。ティーンズ版リビングラボの開催と、オンラインアンケートによる意見聴取を実施していく。
野末氏	やはり学生の生の声として聞けるのは良い。非常に貴重なデータかと思う。今回の結果からさらに膨らませて声を聞いていけると良いのではないかな。
杓谷氏	未来を担う存在がこのように関わってくれ、巻き込んでいることが素晴らしいと感じる。

(3) マーケット・サウンディング調査の結果について
資料6に基づき、事務局J Vより説明。

※特に質疑・意見なし。

終わりに、各アドバイザーより一言コメントをいただいた。

杓谷氏	博物館についてはまだ物足りなさを感じるが、着々と進んでいる印象。未来型図書館が市民にとって意味のある場所になることで、まちも変わってくるのではないかなという期待感もある。
野末氏	とても基本計画が練られてきていると感じる。これからは細かな点のサポートやアドバイスも行っていきたいと思う。

次回、第5回アドバイザーリーボードは2025年1月に開催予定。

以上